

令和2年度第2回

# 介護・医療連携推進会議

令和3年1月27日（水）

それいゆ定期巡回・随時対応型訪問介護朝霧

管理者 山田 裕美

# それいゆ定期巡回朝霧のご利用状況

【令和2年12月現在】

- ご利用者数 22名（男性7名 女性15名）
- 要介護度

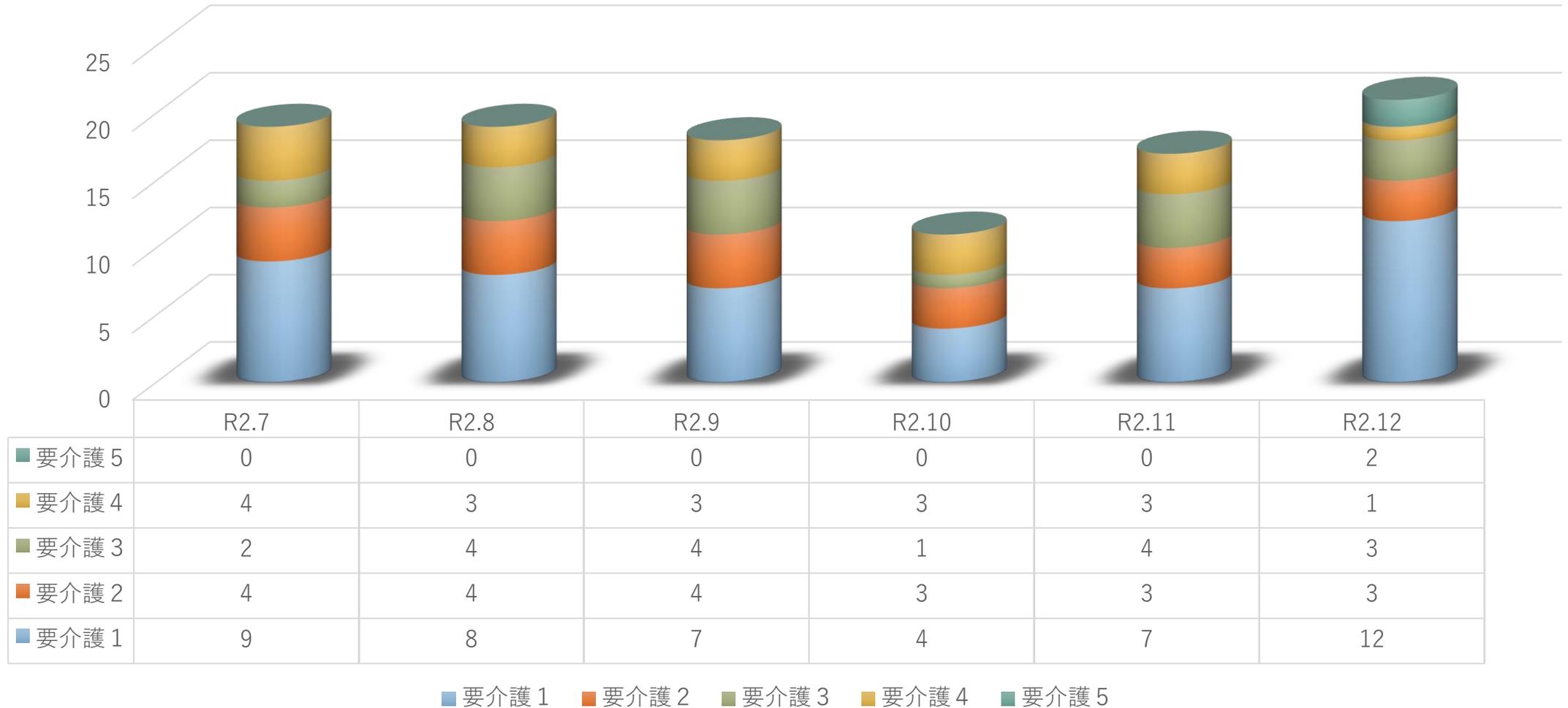
要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
10名	3名	3名	2名	2名

- 年齢

70代	80代	90代
6名	12名	4名

- お看取り：R2.6~12月の間で 3名

# 利用者様の利用推移 (R1.7~12月)





# 活動報告

令和2年

7月 医療介護連携推進委員会 →現地開催中止

8月 出前講座（ZOOM）：朝来市グループホームたんなん様

11月 地域情報誌「まるはり」取材 →2020年12月号掲載  
兵庫県定期巡回普及セミナー 参加

※令和2年3月以降の研修や会議はキャンセルとなりました。



# 新型コロナウイルス対策

☆それいゆ朝霧では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年3月より下記の対策を実施しています。

- 職員出勤前に体温測定と症状の有無の確認。
- 職員の時差出勤と社用車待機を実施し、職員間のソーシャルディスタンスを保つ。
- 訪問時は「マスク・ゴーグル・使い捨て手袋（手袋は利用者ごとに交換し廃棄）」を常時装着する。訪問前後に手洗い・アルコール消毒を励行する。接触前に利用者の体温測定と体調確認を実施。

感染防止対策を徹底し、安心してサービスを受けて頂けるように引き続き配慮していきます。





# 定期巡回出前講座について

- 地域の医療福祉関係者や住民等に対して出前講座を開催することで、地域の定期巡回・随時対応型サービスへの理解を促進することを目的としています。
- 新型コロナウイルス感染拡大の観点から、ZOOM（ビデオ会議）での開催を開始しました。

■■■それいゆ朝霧でも出前講座を随時受付しています■■■

時間：30分程度～定期巡回サービスの説明を行います。

場所：どこでも可。**ZOOM（ビデオ会議）での対応も可能。**

※受講側に環境設定はお願いします。

参加人数：1名から可。（ソーシャルディスタンスが保たれる事）

費用：無料☆お気軽にお問い合わせください。

訪問介護・訪問看護

最期まで、「いつも通り」の生活を送られるように



山田 裕美(ただ ひらみ) 兵庫県西宮市出身。昭和56年生まれ。総合病院ではICU(集中治療室)などで看護師としてのキャリアを積み、その後それいゆ朝霧の訪問看護ステーションの看護師として勤務。定期巡回サービス開始された際に計画作成責任者を担い、現在は子育てをしながら管理者も務めている。



高橋 正(ただしただし) 兵庫県高砂市出身。昭和52年生まれ。大学卒業後、陸上自衛隊の高射特科部隊に所属。その後、以前からの夢であった医療系の道に進むため、相生の看護系専門学校に入学し看護師免許を取得。兵庫県立がんセンターで看護師として経験を積んで現職へ。それいゆ朝霧では訪問看護サービスの管理者を務めている。



ある日突然、  
「いつも通り」の生活が  
送れなくなったら――。

朝起きて、歯を磨いて食事をし、仕事に行ったり趣味を楽しんだりして外で過ごし、家に帰って夕食をとって入浴して床に着く。こんな当たり前のことが、ある日突然変わってしまったらどう感じますでしょうか。たとえ経験の無い方であっても、強いストレスを感じることは容易に想像できるはずです。

兵庫県明石市にある社会福祉法人博愛福祉会「それいゆ朝霧」ここでは何らかの理由で介護や医療サービスを受ける必要があるものの、自宅を離れたくない、いつも通りの生活を続けたいと願う人を対象に、月額利用料定額で24時間365日対応の訪問介護・看護混合型のサービスを提供しています。利用者の「いつも通り」の生活を支えるのはそれいゆ朝霧の専門スタッフたち。介護サービスを提供するヘルパーはもちろん、医療行為を行える看護師スタッフも常駐しており、日々の定期巡回で利用者の状況を確認し、必要に応じて情報共有し、有事の際は、一丸となってサポートを行います。そのようなチーム体制が組まれています。

「編」まず簡単にそれいゆ朝霧のサービスについて、お二人それぞれから説明をいただいてもいいですか。

―(山田) 私が管理者を務めている。定期巡回サービスは、あらかじめ決めた時間に1日複数回利用者様のお宅を訪問し、安否確認や排泄介助、体位交換、配膳・下膳、服薬介助などを行っています。現地で利用者さまとの関わりから得られた情報を、社内のヘルパーや看護師と共有し、今後必要となり得るサポートに生かせるようにしています。

―(高橋) 「訪問看護サービス」は弊社の看護師が利用者さまのお宅を訪問し、主治医の指示書に添ってインシュリン注射や胃ろうなど、日常的に医療的ケアを必要としている方に対し医療処置を行います。こうしたサービスがあることで、従来病院で入院を余儀なくされる方もご自宅まで通って生活を送ることができま。

―(山田) その他にも、定期巡回には24時間365日オペレーターが対応する「随時訪問サービス」や「随時対応サービス」があり、オペレーターが必要と判断した有事の際や利用者さまのご家族からご連絡があったときに、状況に応じて必要スタッフを迅速に派遣できるような体制を整えています。

―(高橋) サービスごとに利点があるのかもしれませんが、限界もあります。たとえば医療度

が高いくらといって病院のように看護師だけで24時間のサポートはできません。そこで看護師が対応できない部分は、定期巡回サービスのヘルパーと一体となってサービス提供を行うことで生活全般をサポートしたり、その他のサービスとの連携で補ったりと、横の連携を密に取るこ

とによって利用者さまの生活サポートをしています。

「編」なるほど、利用者がこれまで通り生活を続けられるよう、専門家がチーム体制を組み、24時間365日サポートしているのですか。



# 何が幸せなのかは、あくまで 本人が考えることだから

「編」お二人どういった思いで「それいゆ朝霧」で働かれているのかについて教えてください。

―(山田) いつも通りの生活が送れなくなってしまう不安を抱えている利用者さまが多いので、利用者さまが居たい場所に居られたい、暮らせたりするようチームでサポートすることによりがいを感じています。ご病気になるったり介護が必要になったりすれば、もう病院や施設に入るしかないと思っっている方も多く

いらつしやるので、そうした方々に一つの選択肢肢として検討いただき、満足してもらえれば嬉しいですね。

―(高橋) 若い人や軽度の入院の方だと、たとえ入院してもいつかは家に帰られる、それが当たり前だと考えるでしょうけど、高齢の方はそうじゃありません。ご家族が無く、家に帰りたいけれども帰れなかつたり、もしないらここで一生を終えたりするかもしれない。そうした不安をお持ちの方もいらつしやいます。だからこそ、最期までいつも通りの生活を守る、居たい場所で暮らせるようにサポートすることの仕事をやりがいを感じています。

―(山田) ただ、こちらから「これがあなたの幸せだ!」といった押し付けは全くしません。何が幸せかを決めるのはあくまで本人だからです。私たちは利用者さまの「いつも通り

「編」サービスに意義を感じつつも、本人がどうしたいか、どう在りたいかを大事にされているんです。最後に、利用者様が「いつも通り」の生活を送られるよう心がけていることはありますか。

―(山田) 利用者さまができることを、私たちでしてしまわないことを心がけています。自分の力でできるよに、本人の持つ能力を最大限に生かす為の工夫や助言を行うことも専門職としての大きな役割です。自立を促すことは、その人らしく生きるための最重要課題であり、サービスに依存しすぎないように

本人の「できる」能力を見極め、伴走するような支援を行うことが大切ですよ。

―(高橋) チームで行う仕事ですので、ヘルパーや看護師、関係機関と連携しながら利用者様の「いつも通り」の生活をサポートするために横のつながりが大切にしています。今後利用者さま一人ひとりの要望にお応えし、その人らしい生活を支えられるよう、チーム一丸となって取り組んで参ります。



FAXでのお問い合わせは078-915-7180

明石  
日の出医療福祉グループ  
社会福祉法人博愛福祉会  
それいゆ朝霧

明石市東野町1910-6 ピアノシティモア107  
☎ 078-915-1233  
📍 3台  
交通 山陽大蔵駅 徒歩8分

【安心安全対策】  
入り口での消毒、換気等は全て実施しております。



地域情報誌  
「まるはり」  
に掲載されましたのでご覧ください